

NEW ACOUSTIC CAMP

山と音の遊び方 

VOL. 1 



NEW ACOUSTIC CAMP 2017

ACOUSTIC MUSIC FES. & CAMP SMILING SINGING EATING and LIE DOWN

2017.9.16(sat) - 17(sun)

MINAKAMI KOGEN RESORT 200

For New Acoustic Camp Lovers



- ACIDMAN
- Awesome City Club
- チャラン・ポ・ランタン
- D.W.ニコルズ
- HAWAIIAN6
- HY
- 片平里菜
- LOVE PSYCHEDELICO
- LOW IQ 01
- MONOYES
- NICO Touches the Walls
- OVERGROUND ACOUSTIC UNDERGROUND
- SCOOBIE DO

... and more (A to Z)



主催 New Acoustic Camp 協賛 Columbia 後援 特別協力 協力 問合せ

<http://newacousticcamp.com>

Jeep Wrangler

果てしない自由への冒険が始まる。



NEW CAMP STYLE

NACがこんなにも楽しい大きな理由のひとつが、参加者がキャンプをして過ごすこと。キャンプ初心者さんもファミリーも、20,000人が笑って、歌って、踊って、食べて、大きな空のした、おだやかに眠る。



こんなにのんびりできるキャンプインフェスは、ほかにはあまりないかも!?

今年のイメトレをしてほしくて、昨年のNACで出会った

キャンプサイト7つをキャッチ。

キラキラ楽しそうな皆さんを、ご紹介しましょう!

Text : Tomoko Yanagisawa Photo : sumi☆photo



写真掲載車両

Sahara

ファイヤークランカーレッド C/C

3,963,600円

Unlimited Sport

3,963,600円

Unlimited Sahara

4,276,800円



卓越したオフロード性能が
実証されたモデルにのみ
与えられるバッジTrail Rated®

※価格は、2017年5月現在の全国メーカー希望小売価格(含む消費税)です。※掲載の全国メーカー希望小売価格は参考価格です。販売価格はジープ正規ディーラーが独自に設定していますので、各店にお問い合わせください。※税金(消費税を除く)、登録諸費用、保険料等は含まれておりません。※価格には、リサイクル料金は含まれておりません。別途必要となります。※価格には、オプション料金は含まれておりません。※写真およびイラストは、実車とは異なる場合がございます。※価格・諸元・仕様ならびに装備は予告なく変更する場合がございますので、予めご了承ください。※Jeepは、FCA US LLCの登録商標です。輸入元: FCAジャパン株式会社 お問い合わせ: Jeep FreeCall 0120-712-812

Jeep



ゆかりさん(左)となおさん(右)。ミニマムで無駄のないサイト。すっきりおくつろぎ中のところをお邪魔しました。

3 荷物は軽くコンパクトに、がフェスキャンプを楽しむコツ

2015に続き、2回目の参加というふたりは、OAUを自当てに千葉からやってきた。「NACはおいしいごはん屋さんがたくさんあるので、そんなに料理はしなくてもいい、と去年学びました。缶詰をあたたため直すくらいで十分かな」。

食材を減らし、テントは2人でシェア。荷物は軽く、できるものは現地調達で女性だけで楽しむコツ、とか。「とはいえ、朝夕は寒いので、しっかり防寒具、雨具は準備していますよ」



まわりのテントからの気になる視線は大きめのバングナを吊るすことで、ゆるやかにシャットアウト。



2回目なので、テントを張るエリアも前もって決めておいたとか。なので、さっそく「乾杯！」

おいしい缶詰があれば幸せ！



美味すぎるという話題になった、いなばの子キンカレーなど缶詰。カセットボンベ対応のバーナーで缶詰をあたたため直す。

NACの恒例行事ビッグスロー(会場で一斉にフリスビーを投げる)のためのフリスビー。



悪路も何のそのカートがあると便利



ゴルフ場で道が整備されているとはいえ、キャスター付きのカートがあると荷物運びは楽!



タープの下は寝転んでくつろげるよう、防水加工がされたピクニックシートを敷いている。カセットボンベで使える野外用の携帯コンロも準備して、朝食のホットサンドもばっちり!



1 ローカルの強み? いざとなれば日帰りだってできる

地元群馬からの参加という5人は、全員が看護師。駐車場やテントを張る場所の確保が大変ということで、車1台でやってきてタープとテントも1つずつの「ぎゅうぎゅうスタイル(笑)」とか。万が一天気が悪れた場合はいったん家に帰る、という楽しみ方は会場と街が近く、地元民ならではの? 「キャンプ慣れはしていませんが、みんなでものをもち寄せればなんとかなる!」。



会場がゴルフ場のため、タープの下はふかふかの芝生。このあと全員でゴロゴロする予定。



左からはるびさん、ももさん、まりさん、マイコさん、カーちゃんさん。タープの目印に自分たちで書いた「NAC2016」のカードをつり下げて。

5人おそろいのNACオリジナルカップ!



5人色違いのカップは、NACと「CHUMS」のコラボ。カップ以外にもTシャツや椅子、タオルなど心躍るデザインのオリジナルグッズがオンラインで買えますよー!

2 インスタでつながった音楽好きのミニマムサイト

好きなアーティストを通じてSNSでつながったというふたりは、これがキャンプフェスデビュー。神奈川と茨城と住んでいるエリアが違うため、最寄駅の上毛高原駅で合流。「ヒルバーグ」のタープに「MSR」テントと通好みのキャンプギアを使い、居心地のよさは完璧。料理をしていると音楽を聴く時間がなくなるから、と昼食夕食は各自お店を利用。「朝だけホットサンドを作る予定です!」



絵美さん(左)と早帆さん(右)。オーバーオールがステキ。なんとふたりとも看護師! NACファンにナース多し?

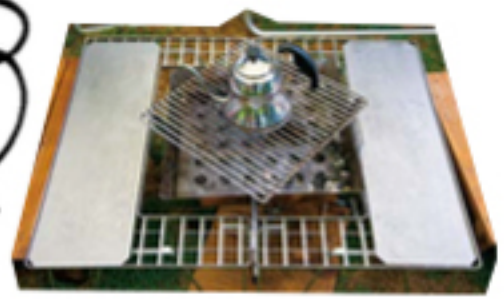


「学生時代からの仲間が大人になってそれぞれ家族ができた今もこうして集まるんです」という地元群馬の4家族。その結束の強さ、うらやましい!



ご主人同士が会社の同僚で、音楽、キャンプ好きでつながったというファミリー。子ども同士も年齢が近く(お揃いのNACのTシャツがかわいい!)、静岡や山梨までキャンプへ行くことが多い。

焚き火は
眺めているだけでも
楽しい!



大人数の料理には、家で使っているという「ルクルーゼ」の大鍋を。アウトドア用のものをそろえる必要はなく、食器も割れにくいものならOKとか。調理には、ツーパーナーが便利。

5 雨の日だって準備次第で乗り切れる!

残念ながら2日目はどしゃぶりの空模様になってしまったNAC2016。そんな悪天候にも負けず、大きな笑い声が響いてきたのが、地元前橋から参加の4家族が集まるサイト。雨が降り込まないようにしっかりとタープを張り、テーブルの中央に焚き火台をおいているりのようにくつろげるレイアウトに。寒くなったら、コーヒーを淹れて芯から温まる。雨なんて気にならない、上級者サイトだ。



なんと使いやすいそんなキッチンカウンター!「木の板2枚と脚があれば、どこでも簡単に組み立てられますよ」。火器の右手にはカウンター、左手には水タンクとレイアウトもよく考えられている。



4 のんびりしているからベビーだって楽しめます

シロクママークでおなじみの「ノルディスク」のテントの中で、すやすや眠る赤ちゃん。そのそばでは、楽しそうに走り回る4人の子どもたち。大きなテントに大きなタープ。何とも快適そうなサイトの住人は、キャンプが趣味の仲良し3家族。「設備が整っていて、客層もおだやか。毎週でもやってほしい!」。お隣と密接したキャンプサイトで子どもも多いため、周囲への配慮を考えて幕でカバー。

のびのびくつろぐ子どもたち。幕は「テンマクデザイン」。風よけにもなる。

夜にはこれで映画上映も??



大勢が集まるときは「コストコのホールチーズケーキとロールパンはマスト!」。サプライズ誕生会を予定しているそうで、「HAPPY BIRTHDAY」のフラッグもこっそり準備。



キャンプサイトのディスプレイも楽しみの一つ。フラッグを張り巡らしたり、ふかふかのクッションを膨らませたり、子どもも喜んで手伝ってくれるとか。



7 小さいスペースでどこまで快適にできるかが楽しい

こちら雨を楽しむカップルを発見！ 栃木から参加したふたりは、マニアの域に入るほど道具のセンスがいい。「ヒルバーグ」のテントと「MSR」のタープをこぢんまりと張り、テーブルは小さなものをふたつ並べ、カセットコンロもコンパクトなものを。限られたスペースでいかに快適に過ごせるかの工夫が光っていて、「キャンプのことばかり考えています(笑)」という言葉に深くうなづくサイトだ。



雨天に活躍するロープは、クライミング用のもの。雨具のジャケットやタオルをかけられるようにしておけば、乾きやすい。



栃木県足利から参加した会社員のカップル。毎週末、キャンプへ行くほどの自然好き。



左/食材やこまごまとした料理道具の運搬は、竹でできた市場かごで。右/「イワタニプリムス」のバーナー。こんなにコンパクトなのに、2口あるのはかなり使えるアイテムだ。



左列前から塚田将史さんと智美さん夫妻、キャンプ好きのヤスミーさん、清水久美子さん、右列前から羽鳥あゆみさん、西野愛さんと健二さん夫妻、佐藤直人さん。全員、都内在住の会社員。「車が分散すると大変なので、レンタカーのハイエース1台でやってきました」

基本、ソロテントです。ゆっくり寝るぞー！



単身で参加していた女性ふたりのテントを拝見。パッキリとした赤がきれいなワンポールテントは張りやすさが魅力。写真下の「ノルディスク」は前室があるので、雨でも荷物が多くても快適、とのこと。

6 食べることも重視これが大人のフェススタイル

平均年齢39歳。恵比寿のとあるバーの常連同士が仲良くなったという8人組。単身参加あり、夫婦あり、もうすぐ結婚するカップルあり、と全員が酒を愛する賑やかすぎるグループだ。毎週末キャンプへ行くというキャンプマスターがいるため、料理もスモークあり、煮込みあり、と大充実。「ワインを飲みながらわいわいするのが楽しいから、ステージそばには行かずにずっとサイトにいるんです(笑)」

それぞれ持ち寄った椅子は「ヘリノックス」のもの。カバーもシンプル、が大人らしい。



よく集まってのみに行く、という愛酒家チーム。このメンバーでフェスにきたのは初めてですが、食べることへのチームワークはすごい！ プラ製のワイングラスとピオワイン、時間をかけておいしくなるナッツ、干しイチジクのスモークとつまみも完璧。



緑のなかで音楽とともに過ごす 極上の時間

数多く開催されている野外フェスでも、「ここでしか味わえない時間」があるのがニューアコースティックキャンプ。
緑に包まれた場所で響くアコースティックな音楽は、ミュージシャンも、そしてそこにいるファンも、すべての人をリラックスした空気に導いてくれる。

Text: Takashi Kikuchi aka Fas Ojisan Photo: sumihirophoto Illustration: Megumi Yamamoto

iii

ミュージシャンが注ぐ熱情とファンが期待する思いが充満するライブハウスやコンサートホールのライブももちろん好きだけど、ミュージシャンがリラックスし、ファンが笑顔にあふれる野外フェスでの時間も同じくらい好き。どちらかを選べななことを言われたとしても、絶対に答えは出せない。その両方を感じられることが、フェスという文化が定着した、今という時代の贅沢さだと思っている。

いろんな場所で、いろんなスタイルで開催されている野外フェス。4月から11月までの週末は、日本のどこかでは必ずフェスが

なわれていると言っても過言ではない。数年前に比べても、その時期はどんどん長くなっていくし、フェスのスタイルはバリエーション豊かになっている。9月などは、台風が多い時季ということもあって、開催が回避されることが多かったのだけど、今や野外フェスがもつとも多い月のひとつになった。なんたって、9月は晴れたら気持ちがいいからね。

9月に開催される野外フェスの代表格が「ニューアコースティックキャンプ(NAC)」と言えるだろう。とにかく気持ちいい時間が流れているフェスだ。気持ちいいって感じさせてくれるものとは何なのか。2012年から群馬県みなかみ町のゴルフ場に会場が移ったのだが、そのことによってNACの魅力はますます深まっていったと思う。緑の絨毯と言っても間違いないゴルフコース。椅子やシートを出さずにそのまま座り込んで気持ちいい。ライブをBGMに寝転がってポーツと空を眺めるなんて、最高の時間じゃないか。メンテナンスが行き届いたゴルフコースだからこそ、そんな至福の時間が可能になる。ゴルフをまったくやらない自分にとって、ゴルフコースはそれほど魅力的なものではなかったのだけれど、その認識を変えてく

よって、その場所だけの、その時間だけの特別な空間に変わる。しかもデコレーションが主張し過ぎるわけではなく、自然と調和されている。そのバランスが絶妙なのだ。だから会場全体がフォトジェニックで、多くの人々がそこで体験をSNSで公開している。

ライブという点だけを考えれば、音圧やライティングなどに不満がある人がいるかもしれない。けれど、それを求めるのなら他のフェスに行けばいい。音響も照明も完璧な単独公演に行けばいい。NACでしか味わえないものが確実にある。だからこそ、毎年9月にはみなかみのNACに行きたくなってしまう。

今年はどうなアコースティックのライブが見られるのだろう。他のフェスとは違うアーティストの音楽に出会えるのだろうか。結成20周年イヤーのACIDMANのアコースティックセットも興味深いし、架空の街Awesome Cityのサウンドトラックというコンセプトを楽曲に掲げた

Candle JUNEさんが手がける空間クリエイションも、NACを特別なものにしていく。数々のフェスで、ステージのデコレーションを担ってきたJUNEさんの経験が結集されたものがNACと言えるだろう。空と木々と芝生だけに囲まれた場所にデコレーションという彩りを加えることに



どーも、どーも！
フェスおじさんです。



● 菊地 崇

通称・フェスおじさん。年間に国内外20近くのフェスに参加している。さまざまな媒体に執筆する傍ら、オーガニック、エコロジーなど、カウンター・カルチャーをテーマとした、フリーペーパー「DEAL」も編集・発行。著書にPHISHを追いかけた「自由、って何だ？」がある。

れたのがNACでの時間だった。森を破壊する新規の開拓には賛成できないけれど、今あるものを使って自然を感じてもらおう場を作ることには賛成だ。

緑に包まれた環境には、なぜかアコースティックの響きがマッチする。ライブはアーティストとファンが一緒に作り上げるものと言われるけれど、NACでのライブは他のフェスとは違う特別な



Awesome City Clubもおもしろいだろうし、夏に4年ぶりにオリジナルアルバムを発表するラブサイケデリコも自然のなかで聞きたい。

ライブはNACではコンテンツのひとつではない。キャンプしている時間のなかにある音楽。だからこそ、いつもとは違うミュージシャンの音が側にあればいい。他のライブとも、CDとも違うミュージシャンの「生」を聞くことができるNAC。今年も最高の至福の時間が待っている。

TIPS 4 ひくか? 背負うか? 荷物運び問題

オートキャンプエリア以外のキャンプエリアは荷物を自分で運ばなくてはならない。大量の荷物を運ぶとなるとワゴンが有利だが重くなると坂道や悪路ではかなり苦勞する。できるだけバックパックで背負って、かさばるものだけワゴンでひくのがベター。



運べる荷物は限られるが、バックパック派の方が機動力は高い。ワゴン派は過積載に注意。車輪が壊れたらただのお荷物になる。

TIPS 3 斜面でも快適に寝る方法

キャンプエリアとはいえ、常設キャンプ場ではないので完全にフラットな地面は少ない。くつろぐ時はそれほど気にならないが、問題は寝る時だ。頭を斜面の山側にし、足の下にバックパックなどを置いて足を高くしよう。足を高くすると疲れにくくなる。



傾度があるとだんだんマットごと谷側にズレ落ちてしまうので、マットの下に百貨店で買える滑り止めシートを敷いておくといい。

TIPS 6 タープがあるとこんなに快適

タープの主な役割は日よけ、雨よけだが、リビング空間を作るのにも役立つ。仲間同士別々にテントを張っていても、ひとつのタープに集まれば、共同の宴会場として活用でき一体感も生まれる。大き



なタープを常時張らなくても、雨撤収時に臨時で張れる小型のタープを持っておくと重宝する。



右:クアッドマルチパネルランタン/コールマン ¥10,584 関コールマン ジャパン 0120-111-957 中:IL 2500ノーススターLPガスランタン(ネイビー)/コールマン ¥18,144 関コールマン ジャパン 0120-111-957 左:オービット/ブラックダイヤモンド ¥3,888 関ロストアロー 049-271-7113

TIPS 7 灯りはなににする?

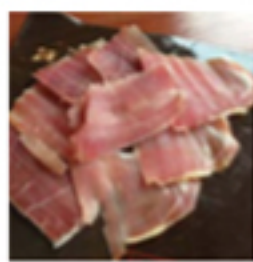
温かみのある光源とコスバなら、ガソリンなど液体燃料のランタン。扱いやすさなら、LEDやガスのランタン。電池式ならテント内でも使えるし、スマホを充電できるものもある。ミニマムで行くなら軽くて十分な光量のある登山用のLEDランタンがオススメだ。

TIPS 5 地場食材を食べよう!

フェス飯も地元食材を使った美味しいフードブースが出店しているが、せっかくキャンプするなら調理もしたい。みなかみ周辺の道の駅や地元の名店では、季節の野菜やきのこ、ハムやソーセージなども売っている。入場前に買ってキャンプ料理に取り入れてみよう。



道の駅「みなかみ水紀行館」では地元の農産物を販売。朝9時から朝市も開催される。精肉店「育風堂」は国産肉長期熟成生ハムはもみみなかみが有名



キャンプで楽しく過ごすための7つのTIPS



NACは2日通し入場券があればキャンプができる! しかも単に寝る場所を確保するためだけではなく、本格的なキャンプだ。野外で快適に楽しく過ごすコツとワザを伝授しよう。

Text : Shingo Watanabe Photo : sumi☆photo, Naomi Sudo



TIPS 1 モテるかも? キホンを覚えて着火剤ナシでも一発着火

直火は禁止されているが、焚き火台(七輪は芝生を焦がすのでNG!!)を使えば焚き火も可能。炎を眺めながらライブの余韻に浸ってチルアウトなんて素敵じゃない? しかも着火剤ナシで一発着火できたら、仲間からも尊敬の眼差し。女子の目もハートになるかも? それでは着火の極意をお伝えしよう。



【用意するもの】

薪、地面を焦がさないための焚き火台、火傷防止の革手袋、薪を小刻みにするための鉋、それとトングがあればOK。焚付け用に小枝や松葉も用意しよう

TIPS 2 「持っててよかった〜」こんな装備

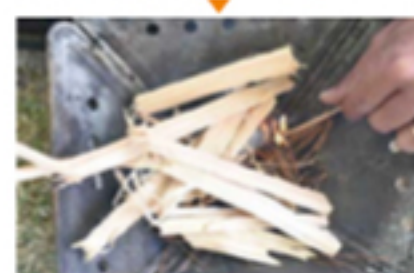
雨対策のレインウェアや長靴はもちろん必携だが、それ以外にもこんな装備があると安心。処理に困る焚き火や炭火の始末には「火消し壺」が便利だ。吸水力が高くすぐに乾く「速乾タオル」は洗顔だけでなくテントの結露取りにも役立つ。シャワーのない会場では「ドライシャンプー」でさっぱり。



A: 蓋を閉めればそのまま持ち帰れて次回もまた使える。ポータブル火消し壺/ロゴス ¥5,724 関ロゴスコポーレーション 0120-654-219
B: 収納ポーチ付きで携帯しやすい。ウルトラライトBODY/バックタオル ¥3,672 関モチツキ 0256-32-0860
C: 植物由来成分で頭皮の臭いやベタつきを抑える。オーガニックドライシャンプー-50ml/AN ¥1,188 関OFA 06-6535-0131



1 焚付け用の小枝や針葉樹の葉を中心に、その上に小刻みにした薪を細い順に重ねよう。細めの材は多めに用意



2 細長く削った薪の先端に火を付けたらタテに持って焚付けの下部に火を移す。この時風が当たらないように注意



3 火が消えかけたら小枝か細めの薪を投入。中太の薪に火が移るまで吹いたりせず火を育て、炎が安定したら成功だ

子どもに、戻ろう。 オトナに、なろう。



The Outdoor Company™



www.coleman.co.jp

自由で垣根がない、 みんなでキャンプしている雰囲気がいい

井手大介さん (ラジオMC・DJ)

Text&Photo : Naomi Sudo

ラジオパーソナリティとして活躍している井手大介さん。釣りや登山をはじめ、大のアウトドア好きとしても知られている。NAC初参加は2年前。そのときはキャンプをして仲間と楽しんだという。

「仕事も兼ねていたので、友だちも来て一緒にキャンプしました。芝生は綺麗だし、ベグも打ちやすいし。キャンプ道具を運ぶのがちょっと大変でしたけど(笑)、あとはぜんぜん。最高の環境でした。星空がすごかったことが印象深いです。天の川が空にバーン!と。あれはなかなか見られないから、また期待したいですね」

ハンモックでまどろみながら耳にした音楽も忘れられないという。

「僕がテントを張っていたあたりは、薄く音が聞こえてくる場所で。ああ、いま真心ブラザーズだとか。ハンモックに揺られながら聞いていました。とても贅沢な時間でしたね」

井手さんは仕事柄、さまざまな音楽イベントにも足を運んでいるが、NACはキャンプサイトとステージの

ステージと キャンプサイト、 ちょうどいい距離感



● 井出大介

ラジオ番組を中心にDJ/MCとして活躍中。釣りや登山などアウトドアが趣味。立ち上げから関わるFMヨコハマ「The Burn」(土5:00-8:00)は、13年以上続く人気のアウトドア番組。InterFM「Happy Hour」(月-金 11:00-14:00)でもメインパーソナリティを務めている。雑誌「ガルヴィ」でも連載中。

距離感が絶妙だという。その隔てない空気は出演者とオーディエンスの関係にも当てはまる。

「アーティストと一緒にキャンプしている雰囲気ですよね。警備員がガツチリかためている感じもないし。深夜に突発的に弾き語りをはじめたり。タイムテーブルにはないライブ、みんな体育座りして。そうそう、RONZIKくんが『好き好きロンちゃん』という歌を歌うんですけど、聞けた! 起きてよかったです!と。これはぜひ注目してほしいですね。きっと今年もやると思いますよ。まあ…歌詞は深夜ならではですが…(笑)」

井手さん自身もかつてはバンドを組んで音楽活動をしていた。NACのステージ裏では、そのときの仲間や過去に対バンした懐かしい顔ぶれに再会するなど、まるで同窓会のようになっていたのだとか。

「約束はしてないけれど、行ったら会えた! そんな、昔あったライブハウスのたまり場のようでした。いまとなつては貴重な場を作ってくれているなあと思います」

最近ひさびさにギターを買って、たまたま弾いているという井手さん。真夜中のセッションに登場する日も近いかもしれない…?